

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス いまラボキッズ		
○保護者評価実施期間	2025年12月10日		～ 2026年1月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2026年1月13日		～ 2026年1月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育をおこなうことで、児童が集中して課題に取り組むことができる。自分の話を聞いてもらえることやできた！を経験する機会(場)となり、自己肯定を育むことにつながる。	個別療育でも、担当を固定することではなく、色々な職員と関わる機会を作っている。働く	療育記録に、情報共有したいことを記載していますが、職員間でより詳しく情報共有できるよう、今後も意見を出し合い、工夫していきたい。
2	療育に使用したプリント教材をお持ち帰りいただくことで、保護者も児童の進捗状況をタイムリーにご確認いただけます。新たな困りごとに対する共有や連携もよくなっている。	お迎え時の保護者へのフィードバックのみだと、送迎児童へは、フィードバックの機会がないので、特に伝えたいことがある時は、メールやLINEなどを利用し、情報を共有するように心がけている。	特記事項がない時にでも、フィードバックの機会を作れるように、考えていきたい。
3	個別療育が終わり、最後の10分前後は、同じ時間の児童との小集団活動時間となり、同年代との児童との関わり時間も持つてる。	児童が満足して帰れる、次回もまた来たいと思えるような終わり方や声掛けを心がけている。	一人ひとりの児童の特徴を職員間でさらに共有していきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎を卒業し、自分で通所するへの切替ができないため、低学年の児童など、必要としている児童へ、送迎ができていない。	児童が自信をもって、ひとりで通所できるように、また保護者が不安なく、送りだせるように、計画を立て、共有していく必要がある。	職員間で協議し、計画を立案する必要がある。
2	職員間の情報共有が不十分な場合がある。	朝礼にいない職員へどう情報共有する時間を確保するかが問題。	LINEやツールを利用し、情報共有できるようにする工夫が必要である。
3			